

「ちっご教育の日」関連事業

# 令和7年度 青少年健全育成のための 意見発表会

～テーマ～

小学生『伝記を読んで思うこと』『筑後市の未来と私』  
もしくは自由テーマ  
中学生『筑後市の未来と私』もしくは自由テーマ



とき：令和7年11月2日(日)  
ところ：サザンクス筑後 小ホール

●  
主催

筑後市・筑後市教育委員会・筑後市青少年育成市民会議・筑後市PTA連合会

## はじめに

こんにちは、筑後市青少年育成市民会議の会長を務めさせていただいております徳永拓です。11月2日の「青少年健全育成のための意見発表会」にはたくさんの方々にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

本年も小学生は「伝記を読んで思うこと」、中学生は「筑後市の未来と私」をテーマに12名の皆さんに発表していただき、「伝記を読んで思うこと」では自分の未来に対する糧を感じたと思いました。「筑後市の未来と私」では、文化の伝承を通じてのふるさと愛、安心安全で住みやすい筑後市にしたいという思いや考えを感じることができました。

私たち大人は、人々と未来に羽ばたいていけるような子供たちを育て、応援していきたいと考えております。

最後になりますが、お忙しい中参加いただいた皆様、および各学校関係者各位、早朝より会場運営のお手伝いをいただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。また、地域の皆様には今後とも青少年健全育成にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年11月

筑後市青少年育成市民会議

会長 徳永 拓

### 「ちっご教育の日」とは…

市民の間に教育尊重、教育振興の世論を喚起し、市民自ら生涯学習への参加を促し、心豊かに生き抜く子どもが育つ教育風土の醸成を図るため、11月第1日曜日を「ちっご教育の日」とし、この趣旨にふさわしい取組みを行う期間として、11月1日から同月30日までを「ちっご教育月間」とするものです。

－平成17年10月19日 教育委員会告示第1号－

## 目 次

### <意見発表>

#### 【小学生の部】

失敗は発明の材料、トーマス・エジソン	水洗小学校	5年	山口 結	1
学びてのち 足らざるを知る	筑後南小学校	5年	小川 誠士郎	2
“ハッピー”をみんなに	古川小学校	6年	横溝 花	3
動物好きなジョイ・アダムソン	二川小学校	5年	田中 晴陽	4
My Hero	筑後小学校	6年	野中 千愛	5
私の思う「強い心」	羽犬塚小学校	6年	永田 くるみ	7
私の挑戦	松原小学校	6年	酒見 光	8
鳩屋重三郎から学んだこと	西牟田小学校	6年	加藤 奏蘭	9
やなせたかしさんから学んだこと	筑後北小学校	6年	川口 弘喜	10

#### 【中学生の部】

筑後市の文化と私	筑後北中学校	2年	富安 湖々南	11
みんなが帰る場所、筑後市	筑後中学校	2年	葉山 未菜	12
大好きな町、筑後市	羽犬塚中学校	2年	田中 泰騎	13

◇発表原稿原文のまま、掲載しています。（敬称略）

「小学生の部」

失敗は発明の材料、  
トマス・エジソン

水洗小学校 5年

山口  
結

みなさんには、トマス・

エジソンという人物を知つていますか。トーマス・

エジソンは、アメリカの發明家で、ちく音器、白熱電球、活動写真をはじめ、お

江戸時代の発明家として最も有名な人物です。「発明王」といわれています。

呼ばれており、「努力の人」として知られています。

幼いころから教育を受けられないという困難に見舞われてしまったが、又

書館などで、独学で学習をしました。そんな彼に

更なるかべが立ちふさがります。十一歳のときに難

聴障害を発症し、耳が聞こえなくなつてしまふのです。そんな彼は、

「歳を取るにつれて、難聴のおかげで気が散ること

とがなくなり、仕事に集中やすくなつた。

中しやすくなつた  
と、考へたそ�です。この

ませんでした。エジソンの  
ポジティブの次元が私の

予想をはるかに超えていたのです。彼は、

一番は失敗したことがない。ただ、一万通りのうまくいかない方法を見

つけただけだ。」  
と話す、失敗を発見とともに

え、前向きな考え方をしていました。困難や失敗をプラスに捉える二二二六、あき

うには挑戦することであきらめずに挑戦し続ける強い心を持ちつづけたエジ

ソンを、素敵だと感じました。

私がトーマス・エジソンの伝記に出会えたのは、母のすすめがあつたからで、母

のすべてがおこなわれます。私は習い事の習字教室で硬筆がうまく書けなく

て、落ち込んでいました。

困難も前向きにとらえるトーマス・エジソンの考え方を教えてもらつ、まことに。

大正新編 日本書紀

図書館で本を借りて読んだり、母からの話を聞いたりしていくうちに、彼の偉大さを知り、前向きにとらえて生きる彼の考え方についても魅力を感じました。私は、習字教室に通っています。しかし、一年生のころまでは思うように書けない日々が続いていました。特に硬筆は苦手で、自分の思う形にならないので、こつそりお手本の字を写し取つてしまつたこともあります。習字教室に行きたくないという気持ちにもなつていました。気持ちが落ち込み、どうしようもなくなつていて、母がトーマス・エジソンの本をすすめてくれたのです。

きました。すると、硬筆展でなんと入賞することができました。その時の胸が高鳴つたあの気持ちは、今でも忘れていません。今では毛筆の練習より硬筆の練習の方が好きになりました。早く習字教室へ行きたいと思う私に変化していきました。また、宿題に漢字練習があるのでですが、一字一字丁寧に書くことが、当たり前になつていきました。

以前は、失敗した文字や手を抜いて書いた字を指摘されると、泣いてしまつていたけれど、今では前向きに、自分のために教えてくれているんだと、捉える

ことができます。ポジティブに最後まで取り組むことができるのは、私ができる私になりました。

私には夢があります。それは俳優になることです。一年生の時、学習発表会の劇で役になりきつて演じることが楽しかったのがきっかけです。でも、この

仕事に就くためには、様々な役になりきるための努力や、たくさんのオーディションを受け、一握りのチャンスをつかんでいく必要があると思っています。何十回、何百回も審査で落ちるとも聞いています。そんな困難が目の前に立ちはだかっても、前を向いてあきらめずに挑戦しなければ、私の俳優になるという夢は叶いません。

だから、この習字での経験を生かし、エジソンのように前向きで最後まであきらめない強い心で挑戦し続ける私でありたいです。



学びてのち足らざる  
を知る

筑後南小学校 5年

誠士郎

「これくらいできればいいや。」

学校での勉強や、習い事の英語や空手。一つの課題をクリアするたびに、僕の心の中に浮かんでいた言葉です。与えられた問題を解くことができたり、新しい言葉や技を覚えたりするたびに、そこで満足している自分がいました。そんな僕の心に「もつとできる」と大きなエネルギーを与えてくれたのが、榎本武揚です。

榎本武揚は、江戸時代の終わりから明治時代にかけて活躍した人物です。オランダに留学して最新の科学や船のことを学び、日本に持ち帰りました。その後、函館で明治新政府軍と戦い敗れてしまいますが、その能力を買われ、政治家

武揚は若いころ、オランダに留学し、西洋の海軍技術や最新の学問を学びました。そこで目にした、これまで出会ったことのない技術や考え方につれた時、「学びというものは、終わらないものだ。もつと学び続けなければならない。」と気づいたのです。それから、武揚は、自分の力に決して満足することなく、ひたすらに努力を続け、当時

として新しい時代に合わせた北海道の開拓や発展のために尽くしました。

僕が榎本武揚を調べてみようと思ったきっかけは、三月に行つた、北海道への家族旅行です。ゆう大な海や大地に感動し、北海道が大好きになりました。

それで、学校で伝記について学習することになつたとき、北海道で活やくした人物を知りたいと調べていく中で、榎本武揚に出会つたのです。

「日本に欠かすことのできない存在にまで自分を高めていきました。」  
「学びてのち 足らざる  
を知る」

武揚の言葉です。これは「学べば学ぶほど、自分にまだ足りないものがあることに気付く」という意味です。武揚の生き方そのものを表した、重みのある言葉だと思いました。

僕はこの言葉を中心で繰り返しながら、自分のことについて考えてみました。テストでいい点数をとれるよう一生懸命勉強して100点がとれたこと。よりよい学校にするために委員会活動に取り組んで、みんなからありがとうと言つてもらえたこと。空手の試合で勝てたこと。僕にとつてたくさん嬉しかったことがあります。

もちろん、そのときの僕は、大満足でした。でも今は、もつと分かりやすく説明できるようになりたい。

もつと自分からみんなのために行動できる人になりたい。次はもつといい勝ち方ができるようになります。「これくらいお陰で、そう思えるようになりました。」  
「いいや。」ではなく、「これから挑戦できることがまだある。」と、次の一步を見つめることができた。  
僕には、夢があります。それは海洋学者になることです。海の生き物を研究したり、地球の未来を守つたりする仕事をしてみたいたいと思っています。僕が家族旅行で出会ったあの北海道のゆう大な海も、ごみ問題に直面しているそうです。本来のきれいな海を取り戻したい、きっとその役に立ちたい、と強く思います。そのためには知識をつけていくのはもちろんですが、ボランティアなどごみ問題を解決する取り組みにも参加していきた

に”ハッピー“をみんな

「みんなさんは一ヶ月間、私はそうは思いません。家族みんなでゲームをしたり、友達と集まってゲームをしたり：ゲームをする時間はみんなとの楽しい会話やたくさんの笑顔であふれていくからです。しかし、「ゲーム依存症になる」「ゲームが犯罪のきっかけに」といったニュース

いです。そして、武揚の言葉のように、学び続けることで夢に近づいていきました。

「このくらいでいいや」ではなく、「ここからどうしていけるだろう」と言える自分を目指して。

スもよく耳にします。その度に、使い方や使う時間、ルールを守れば「悪」なんかではないのに！年齢や性別関係なく楽しめて、学習にだつて使える、いろいろな可能性を持つている素晴らしいツールなのに！と、少し悔しい気持ちになります。

そんな私の将来の夢は、ゲームクリエイターになることです。四年生のときに初めてスクラッチでゲームを作りました。とても単純なゲームでしたが、友達や弟がすごく楽しそうにプレイをしてくれました。そのことがゲームクリエイターを目指すきっかけになつたと思います。今では自分がゲームを作つているときの方が、わくわくする楽しい時間です。

みんなが喜ぶ、みんなをハッピーにするゲームクリエイターになろう！そ

う決めた私に、母が、岩田聰さんという人物について書かれた本を薦めてくれました。岩田さんは、任天堂の社長を務められた方で、モツトリーは「みんなが、ハッピーであること」でした。ニンテンドーDSやWiiといった革新的なゲーム機の開発を主導され、「ゲーム人口の拡大」を目指し、ゲーム業界に大きな影響を与えた。本にあるどのエピソードも「大企業の社長になる人はすごいな。」と思うものばかりでした。その中でも私がハツとしたのは、岩田さんの「人と話していくうまくいかなかつたら、相手を『わからぬい人だな』と思うのではなく、自分が上手く伝えられるようにならなければいけない」、「自分と違う意見の人にも敬意を持つて接することが、仕事を面白くしてくれる」などの言葉です。私が考えていた社長像は「人の上に立ち、自

自分が一番正しいと信じ、自分の利益のために、周りの人を使うといったものだつたので、岩田さんのこの言葉はとても意外でした。それと同時に、私が目指すみんなをハッピーにするゲームクリエイターになるためのヒントが隠れていたように感じました。

私は「芯がしつかりしている」とほめられることがあり、私もそれは自分の良さだと思います。その一方で、考えが自分基準になってしまふことがあります。相手の気持ちよりも、自分の意見を押し通そうとしてしまうことが多いからです。

しかし、今は少し変わったと思います。まだ、岩田さんのように「自分と違う意見の人に敬意を持つ」と異なる意見を持つ人にはいきませんが、自分「どうしてそう考えたのです？」と聞いたり、「これ

「いい？」と意見を求めたりで、きるようになります。た。「相手を受け止めるために、自分が少し変わったみたい。」「ううん、自分もみる。」そう意識し出したことで、以前より、自分も周りも笑顔が増えたと思っています。まだ、難しいことも多いですが、家族、友達、そしてこれから出会う多くの人、その一人一人の価値観や、そう考える理由を知つて、少しでも受け止められるようになりたいです。そういう生き方はきっと、一人一人のニーズに応えるゲーム作りや、私一人や似た考え方の人たちとだけでは作れない、個性豊かななどつてもおもしろいゲーム作りの土台になるはずだからです。

改めて、みなさんは「ゲーム＝悪」だと思いますか？

もし、使い方や使う時間などの、ルールを守れない人がいて、「ゲーム＝悪」になるなら、私は、以前のように、「守れない人が悪い」

動物好きなジョイ・ア  
ダムソン

二川小学校 5年  
田中 晴陽

みなさんは、動物が好きですか。ぼくは、好きです。特に犬や猫が好きです。小さいころに、ぼくの家では、三四匹の犬を飼っていました。

とみるのではなく、「どうしたら守りたくなるかな」と考えます。そして、いつか、「ゲーム＝悪」なんて言われないような、適切に楽しく遊べるゲームを作りたいです。今はまだ、周りとの価値観の違いや考え方の違いに悩むことが多い私ですが、岩田さんのように自分の周りに笑顔を増やしていく生き方をこれからも目指します。

ました。二匹が死んでしまった後、残り一匹になつたチビのお世話を家族に教えてもらい、餌をあげたり散歩をしたり遊んだりしました。ボールを投げると取ってくれました。一緒に遊んでいるととても楽しい気持ちにさせてくれました。その犬も去年死んでしまつて、今はいません。でも、楽しい思い出は、今も残っています。

今日は、ライオンを育てた「ジョイアダムソン」さんについて、知つてほしいと思います。ジョイアダムソンさんは、アフリカ大陸のケニアのキヤンブ地に住んでいて、植物や自然の中で生きる動物の絵などを描く仕事をしていました。彼女の夫、ジョージさんは、動物や自然を管理する仕事をしていました。

ある日、ジョージさんが母親を亡くした赤ちゃんライオンを連れて帰つてきたので、その世話をジョイさんがすることになりました。

ました。ライオンの赤ちゃんが少し大きくなると三頭のうち二頭は、オランダの動物園へ、残りの一頭は育つことになりました。ライオンの名前は、エルザ。メスのライオンです。エルザは、やんちゃでいたずらっ子でした。ジョイさんとエルザは、仲良く暮らしていました。でも、「エルザは、かわいいけれど、ペットにしてはいけない。いつかは、自然に返さなくてはならない。」ジョイさんはそう思っていました。そして、野生で動物として、暮らしていくのに一番良い場所を探し、ジョイさんは、つらい気持ちをがまんして、大人になつたエルザを手放しました。

ジョイさんが、エルザのいる森へ行くと、母親になつたエルザは、3頭の子どもを連れて、ジョイさんたちに見せてくれました。エルザと気持ちが通じていたと感じたジョイさんは、エルザのことを物語にま

とめ、本を作りました。その本には、エルザのこ  
とだけではなく、動物の住  
む場所が人間によつてせ  
まくなっていることも書  
かれています。ジョイさん  
が、なぜ、仲良く暮らして  
いたエルザを自然に返し  
たのか最初は不思議でし  
た。でも、きっと、人間と  
同じように、動物たちには  
動物たちそれぞれのくら  
し方があり、そのルールを  
知らないままエルザが大  
人になれば、エルザには、  
居場所もなくなり、食事で  
ある獲物もとることがで  
きずに死んでしまうと考  
えたから、大自然に返した  
んだと思います。

ぼくは、犬や猫を飼うこ  
とで、楽しい気持ちになれ  
ることを知っています。家  
族も同じです。一緒にいる  
だけで心が落ち着きます。

ぼくは、よく、動物の動  
画を見ます。この伝記を読  
む前に、「保護猫が悲しん  
でいます」という動画を見  
ました。その動画では、飼

われていた猫が人間の都合で捨てられていきました。その動画を見て、とても悲しい気持ちになりました。きっと猫も悲しかつたと思います。

世の中には、お金もうけのために犬や猫を飼つて子どもをたくさん産ませたり、育てられなくて、捨てたりする人がいます。

僕は、動物が大好きです。動物は、人間をやさしい気持ちにしてくれるだけではありません。ぼくは、犬を飼つていたことで、近所に住んでいる犬を飼つている人と知り合うこともできました。

ぼくは、これから、自分の気持ちだけではなく、動物の気持ちや暮らしを大切にしていきたいです。大人になつたら、保護犬や保護猫を飼つて大切に育ててみたいと思つています。そして、少しでも、悲しい思いをしている動物を減らしていきたいです。

動物ぎやくたいや捨て

W

筑後小学校 6年

野中千愛

みなさんには、憧れのヒーローはいますか。私がおさない頃のヒーローは、アンパンマンでした。困つている人に自分の顔をあげたり、悪い敵をやつつけたり、きっと誰もが、小さい頃の記憶に残つているのではないか。そんなアンパンマンの生みの親である「やなせたかしきん」。私は、こんな素敵なかっこになり、彼の伝記を手にとつて読んでみました。すると、「ヒーロー」に対する

る人をなくし、大好きな犬や猫、人もほかの動物も楽しく暮らしていける世の中にしていきたいです。

る考え方方が大きく変わりました。

「ヒーロー」という言葉を聞いたとき、みなさんはどんなイメージをもつでしょうか。怪獣をたおしたり悪を成敗したりする強くてたくましいイメージがあるのではないか。しかし、やなせさんは「強いからヒーローなのではない。喜ばせるからヒーローなのだ。」という言葉を残しています。「喜ばせること」がヒーローの条件だというのです。このように「喜ばせること」をヒーローの条件として考えた背景には、やなせさんの戦争体験がありました。やなせさんは、21歳の頃に赤紙が届き、兵隊として戦争に行きました。もちろん「いやだ」とは言えません。戦地では辛いことばかりでしたが、一番辛かつたのはお腹が減ることだったそうです。そして、お腹をすかせたまま、やなせさんは終戦を迎えました。

やなせさんは、「正義なんていい加減なものだ」と思いました。自分たちは正義の味方のつもりで、わざわざ中国まで行つて戦つていたのに、負けた途端に悪者扱いされる。こんなバカらしいことはありません。」「本当の正義ってなんだろう」お腹を空かせたやなせさんは考えました。「正義を振りかざして悪いやつをやつつけるのは正違う。食えているときに、我が身を差し出して食えから救つてくれるのが正義だ」。この考えはやなせさんの心のなかにずっと残つていきました。そして、生まれたのがアンパンマンです。

これまで私の中についた「強い」というヒーローのイメージが、大きく変わりました。何かをおしたたり、成敗したりすることではなく、相手の立場に立て行動することができる者こそが、ヒーローだと私は思いました。こんなヒー

口一になれているいるかなと  
考えたとき、私は1年生に  
対してそんな存在になれ  
ているのではないかと思  
いました。1年生が入学し  
て、筑後小のことが分から  
ず困っているのではない  
かなと私は思いました。だ  
から、朝、学校に来たら、  
すぐに1年生のところへ  
朝の準備の手伝いにいく  
ようにしました。1年生は  
自分の教室を忘れていた  
り、どこにランドセルを置  
いたらしいのか分からな  
かつたりしていました。そ  
こで私が教えると、不安そ  
うな1年生の顔が、ぱつと  
明るく安心した表情にな  
ったような気がしました。  
私は、そのとき、1年生の  
気持ちになつて行動して  
よかつたなと思いました。  
それから、私は困つている  
1年生に進んで声をかけ  
ていきました。すると、自  
然と1年生が私の顔や名  
前を覚えてくれて、話しか  
けてくれるようになりま  
した。相手の立場を考えら

れる人は、周りからも頼られるんだと気付きました。また、やなせさんは、東日本大震災をきっかけに、ヒーローについて再度、考えられたそうです。東日本大震災は、とても大きな地震で、多くの犠牲者を出した。幸いやなせさんや彼の周囲に大きな被害はありませんでしたが、テレビに流れる被災地からの映像を見ていると、悲しくて胸が詰まるような思いだつたそうです。「日本がこんなにひどいことになつたのに、漫画家はなんて無力なんだ」やなせさんはそう考えていました。ところがその頃、被害が大きかつた地域のラジオ局などに「アンパンマンのマーチ」のリクエストがたくさん届くようになつていたのです。やなせさんは、体調が万全ではない中でも、アンパンマンが人々を励ますイラストがかけられたポスターを作成

して、被災地に送ったそ

です。このポスターは、子

どもだけでなく、たくさん

の被災地の人々を笑顔に

させました。困っている人  
に手を差し伸べるアンパン  
マンだけでなく、やなせ  
さん自身もヒーローなん

だと思いました。

私には夢があります。そ

れは、その人に合った薬を

処方する薬剤師です。薬剤

師は、病気で苦しんでいる

人を薬で助ける仕事です。

そのため、病気の辛さやき

つきを、病気の人の立場に

立つて考えることが大切

だと思います。だからこそ、

私は、病気の人はもちろん、

全ての人のヒーローにな

れる薬剤師になれるように、

周りの友達のことを考え

ながら、思いやりの心をも

つともつと育てていこ

うと思います。

## 私の思う「強い心」

羽犬塚小学校 6年

永田 くるみ

日々の生活の中で、「もう無理かもしない」と感じたとき、あなたならどのような行動を選びますか。これまでの私は、「あきらめると」という選択をするこ

とが多かつたようになります。例えば、家族のために夜ご飯をつくろうと思

つて取り組んでも、こ

げてしまったり、何か材料

を忘れてしまったりする

と、気持ちが落ち込み、つ

くることをあきらめてし

まう、ということもあります。

そんなときに出会つた

のは、「十四年間」という短

い人生の中でも多くの素晴

らしい小説を遺した、樋口

一葉の伝記でした。この旧

五千円札を見てください。

みなさんもよく目にした

ことがある、この人物が、

日本銀行が発行したお札

に初めて女性として登場

した、樋口一葉です。彼女

の一言で表すと、「どんな

夢に向かって最後まで挑

戦し続ける人」だと思いま

す。さまざま苦労の連続

であつた彼女の生き方か

ら、私は、「粘り強い心」

をもつて生きることが大

切であると考えるように

なりました。

幼いころには、明治政府

の役人として働く父のも

と、何不自由なく暮らして

いた一葉でしたが、十五歳

のときに、家の跡継ぎで

つた兄を、十七歳のとき

には、父を亡くしました。

父の借金もあり、これまで

は違つて貧しい暮らしを

した。しかし、小説家として

難があつてもあきらめな

い、「粘り強さ」をもつて

きた樋口一葉を支えてい

たのです。

一葉のように、どんな困

難があつてもあきらめな

い、「粘り強さ」をもつて

きた樋口一葉を支えてい

たのです。

、仕事の依頼が増えてきた

ころに重い病気にかかり

てしまつたり、苦悩の日々

もとても多いものでした。

十代のころには、和歌や書道を学ぶために通つてい

た塾で、仲間と自分の字を

比べて落ち込んでしまう

という、私と似ている一面

もありました。

しかし、その一方で、一葉には、「小説を書いて、生活をしていくことは難しく、厳しい」という、厳しい状況

になつたときでも、書き続

けるために、駄菓子屋を開

き、商売を始めてお金を稼

ごうとするなど、「夢をあ

きらめない方法」を考え

る。この粘り強さこそが、今

でもたくさん的人に愛さ

れる小説を遺すこと�이

ました。しかし、小説家として

難があつてもあきらめな

い、「粘り強さ」をもつて

きた樋口一葉を支えてい

たのです。

一葉のように、どんな困

難があつてもあきらめな

い、「粘り強さ」をもつて

きた樋口一葉を支えてい

たのです。

、仕事の依頼が増えてきた

ころに重い病気にかかり

てしまつたり、苦悩の日々

もとても多いものでした。

たり、見たことのない世界をみたりすることができることもれません。また、挑戦し続けていくことで、自分が大きく成長するきっかけとなる人と出会つたり、ふだんは出会うことのない、さまざまな人たちと交流を深めたりするともできるでしょう。

今の私には、はつきりとした夢はありません。将来したいことを見つけるために、さまざまな職業について調べていると、「大変そう。私には難しいかな。」と思つてしまふからです。しかし、夢や目標を精一杯叶えようと、亡くなる直前まで書き続けた一葉の姿に心を打たれ、私も一葉のできる限り叶えたい」と思うことができたとき、私は少し不安にちたいと思いました。また、その第一歩として、「困った人がいたら、すぐに気付くことのできる大人になりたい」という自分なりの目標をもつことができ

ました。これからさらに、なりたい自分に近づき、好きな自分でいられるよう、「粘り強い心」をもつて歩んでいきます。

## 私の挑戦

松原小学校 6年

酒見 光

「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり。」

織田信長の言葉です。人生は、強い印象を残し、今までの取組みで多くの方に語り継がれていました。それはきっとどんな困難にも挑戦する勇気を持っていたからだと思います。

今、私は、挑戦していることがあります。それは、「あいさつ運動」です。私は毎朝昇降口に立ち、登校してくる全校のみんなに「おはようございます」と声をかけています。最初はすごく緊張しました。元気よく言えなかつたり、返事が多く返つてこなくて少しきびしい気持ちになつたりしました。それでも、「今短

い」と言つたのではなく、「だからこそ、全力で生きよう」と思つていたのではなかったと感じました。

織田信長は、戦国時代の武将であり、天下統一を目指して数々の戦いを繰り広げました。また、危険を恐れずに新しいことに取り組みました。それまでの廣い印象を残し、今大生は、強い印象を残し、今まで多くの人に語り継がれていました。それはきっとどんな困難にも挑戦する勇気を持っていたからだと思います。

でも多くの人に語り継がれていました。それはきっとどんな困難にも挑戦する勇気を持つていたからだと思います。

私は将来、挑戦したいことがあります。それは、SDGs『持続可能な開発目標』に向けた取り組みの一歩を達成できるように働きかけるということです。SDGsの目標に挑戦するかは、これからもつと勉強をして、具体的に決めていきた

日もやろう」と決めて続けました。そして、ある日、大きな声で「おはよう！」と笑顔で返してくれた人がいて、とてもあたたかい気持ちになりました。私はこれまでの困難にも挑戦する勇気を持っていたからだと思います。

私は将来、挑戦したいことがあります。それは、SDGs『持続可能な開発目標』に向けた取り組みの一歩を達成できるように働きかけるということです。SDGsの目標に挑戦するかは、これからもつと勉強をして、具体的に決めていきた

その目標達成には程遠い社会です。それは、まだ世界中で、その目標を達成するよさを理解してもらえていないからだと思います。しかし、私は実現でき失敗することも、思い通りにいかないこともあるでしょう。それでも、そこであきらめずに「次はこうしてみよう」と立ち上がることができる人がいれば、「立ち上がる人」になりました。



される六年生になりたいと思います。その経験はきっと、将来の私を支えてくれる、大切な自信になると信じています。

「人間五十年」という言葉は、信長の生き方を知れば知るほど「一日一日を大切に生きよ」というメッセージな挑戦を積み重ね、いつか共に行動してくれる仲間と全力で追いかけたいです。そして信長のように、だれかの心に残る生き方をしたいと思います。

みなさんも、「自分の挑戦」を全力で続けてみませんか。それはきっと、誰かの心に届きます。私も、一緒にがんばります。

**薦屋重三郎から学んだこと**  
西牟田小学校 6年 加藤 奏蘭

みなさんは、本屋さんと一緒に、どんなイメージを聞くと、どんなイメージを思い出かべますか。私は、本がたくさんある静かなからこそ、私は毎日の小さな挑戦を積み重ね、いつかお店で、のんびりと仕事をしていました。でも、この本屋さんで、江戸で人気の本屋として、つたじゅうの「耕書堂」は江戸で人気の本屋になりました。でも、この本屋さんがいたことに驚きました。その人の名前は、薦屋重三郎です。みんなが、薦屋重三郎で、みんなも、「自分の挑戦」を全力で続けてみませんか。それはきっと、誰かの心に届きます。私も、一緒にがんばります。

みなさんは、親しみを込めて「つたじゅう」さんと呼ばれていました。「つたじゅう」というの生きた江戸時代は、の人たちの暮らしの中から、さまざま文化が生まれました。そのために、今の人間が、必要だと考えます。そのためには、今の私共に行動してくれる仲間を作れる力が必要だと考えます。そのためには、挨拶運動を続けることを通して、人とつながる力を高めることがあります。だれにでも挨拶をし、明るい松原小作る仲間を増やし、信頼

を開き、「吉原細見（よしわらさいけん）」という遊郭（ゆうかく）のガイドブックを発表しました。つたじゅうが発表した「吉原細見」は、読む人に喜ばれるように、お店の場所が分かれています。読む人が買い求めました。その後で、江戸で人気の本屋として、つたじゅうの「耕書堂」は江戸で人気の本屋として、つたじゅうは、読む人がもつて白黒の絵が当たり前だつた絵本ではなく、もつとつと楽しんでくれる絵本を作りたいと考え、それまで白黒の絵が当たり前だった絵本ではなく、もつとつと楽しんでくれる絵本を作りたいと考え、それまで白黒の絵が当たり前だった絵本ではなく、もつとつと楽しんでくれる絵本を作りたいと考えました。これが「多色刷り」とよばれています。多色刷りは、「絵師・彫師・摺師」と呼ばれる方法です。多色刷りは、「絵師・彫師・摺師」と呼ばれる職人たちの協力を欠かせません。みなさんも図画工作の学習で版画をしたことがあると思いいますが、私たちが版画の板で下絵を描いて、彫刻刀で

彫り、摺るところまで一人で行います。ですが、この多色刷りは、はじめに「絵師」が下絵を描き、次に「彫師」が板を彫り、最後に「摺師」が紙に色を重ねて写し取るのです。赤や青の色ごとに別の板を作つて何度も摺る、時間と技術のいる作業でした。つたじゅうは職人たちの仕事場に何度も通り、信頼関係を築きながら協力し合うことで、多くの挑戦は順調なことばかりではありませんでした。江戸幕府の老中・松平定信が行つた改革によつて、風紀を乱すとされた本は厳しく取り締まられました。つたじゅうが出した本もその対象となり、財産を没収されるという大きな打撃を受けました。それでも彼は、「人々を楽しませる本をつくる」という信念を曲げることはありませんでした。困難に直面してもあきらめず、自分の信

じることを貫いたのです。私は、つたじゅうの生き方から、二つのことを学びました。一つ目は「協力の大切さ」です。私は、将来、建築士になりたいという夢をもっています。家やビルをつくる建築の仕事は、一人ではできません。設計する人、材料を準備する人建てる人など、多くの人が力を合わせて協力することで建物は完成します。でも、今の私は誰かと一緒に活動したり、話し合ったりするのが正直、苦手です。

班活動では、自分の意見を伝えられず、本当にやりたいことができないことがありました。でも、つたじゅうがいろいろな職人さんと力を合わせて、素晴らしい多色刷りの絵本をつくりあげる姿に、協力しなければできないことがあります。それだと気づきました。二つ目は「信念をもつて物事をやり続ける大切さ」です。私のこれから長い人生の中には、きっと、いくつも



の困難に直面することがあると思います。そのときに、つたじゅうのように、たとえ厳しい環境の中でも、自分の信じる道を歩む強さをもちたいと思いました。建築士になる夢をかなえる中で、困難や失敗もあるでしょう。そのときに、つたじゅうのように信念をもつて進んでいきたいです。江戸時代の一人の本屋さんの生き方から、私はこれから生き方へのヒントをもらいました。

やなせたかしさんから  
学んだこと

筑後北小学校 6年

みなさん、まだ幼い頃、アンパンマンに夢中だった記憶はありますか？やなせたかしさんが描いたこのキャラクターは今までたくさんの人が知つてゐる国民的キャラクターと言えるでしょう。やなせたかしさんは小さい頃から漫画家になりたいといふ夢がありました。しかし、その夢は簡単に叶つたわけではありません。一九四一年、太平洋戦争では、兵の一員として戦争に参加しなければなりませんで、兵の一人として戦争でたつた一人の弟を亡くし、疲れやけがよりも食料がなく苦しい体験をしたことで「正義とは何か」という問いに向き合つかけになりました。そして、戦争が終わり、食料不足で辛かつた体験から

アンパンマンが生まれました。そんなやなせたかしさんの生き方に触れ、心に残つたことが二つあります。

一つめは、「本当に強いヒーローは、自分以外の人のために、自分を捧げられる人」という考え方です。世界に目を向けると、戦争で安心して眠ることや暮らすことができない国や地域が今でもあります。やなせさんは、よく他人のことを思いやり、他人のために頑張ることが本当の正義だとみんなが考えることができます。されば、今よりもつと平和な世の中になるのではないかと思います。アンパンマンは自分を犠牲にして、人々に喜びと生きる意味を教えてくれます。困っている人を助け喜びを与えるアンパンマンの行動を、子どもだけでなく大人も忘れてはいけないのだと思います。

二つめは、「夢に向かってがんばることをやめて

はいけない」ということです。やなせさんがアンパンマンの本を出版したのは、五十四歳のときでした。小さい頃からの漫画家になりたいという夢を諦めずにいろいろなことに挑戦してきましたからこそ夢を叶えることができたのでしょうか。なかなか結果が出ないことを根気強く続けることは難しいことです。でも、そこで諦めることなく夢を追い続けることができたなら、きっと、夢に向かっての一歩は始まっているのだということに気付くことができました。

私の名前には「喜ぶ」という字が使われています。これは、お父さんが「周りの人には喜びを広げる人になつてほしい」という願いを込めてつけてくれたのです。やなせたかしさんも、そのような考え方をされていましたことを知つてびっくりしました。私は

【中学生の部】

この先いろいろな経験をしていく中で、やなせたかしさんのように、私と関わる人に喜びを広げることができるようにになりたいと思っています。そして、やなせさんの生き方から学んだ自分の夢の実現に向かって一歩一歩前へ進んでいきたいです。

筑後市の文化と私  
筑後北中学校 2年  
畠安 湖々南

けぶ声が辺りに響きます。このお祭りにいろんな人が来て、おしゃべりをしたり屋台の食べ物と一緒に食べたりするのがいつも楽しいです。私の地域だけではあります。ません。真っ黒な子鬼が歩き回る盆綱曳きや、熊野神社の火祭りなどずっと続いてきた伝統的なお祭りもありますし、筑後の花火大会やちつご祭など盛大でたくさんの人で賑わう祭りもあります。

私はお祭りが大好きです。友だちと一緒に食べたり飲んだりしながらおしゃべりするのが楽しいといふこともあります。いろんな世代の人が一つの場に集まるという機会がとても貴重だと思うからです。

地域の代表的な祭りでは、年配の方がいつまでにどんな準備をしなければならないか、その経験からためになるアドバイスをしてくださいます。そして

「このお祭りの飾りは、こんなふうにつくるんだよ。」とか、「じいちゃんの時はもつとこんなことをしてました。」とか、昔の話を面白おかしく話してもらつたり、お祭りの謂われを話してくださつたりします。

しかし、どの祭りも年々規模が小さくなりつつあると思います。それはどうあってなのでしようか。一つは祭りを運営される方の高齢化だと思います。運営される方が少なくなれば、祭りも相応の規模でしか実施することはできません。もう一つは若い人たちが伝統的な祭りに対して関心が薄いのではないかということです。今の世の中は祭り以外にも面白いものであふれていて、祭りに参加する気があまりわかないでいるのではないか。ですが、祭りに参加することは筑後市

とか、「じいちゃんの時はもつとこんなことをしてました。」とか、昔の話を面白おかしく話してもらつたり、お祭りの謂われを話してくださつたりします。

しかし、どの祭りも年々規模が小さくなりつつあると思います。それはどうあってなのでしようか。一つは祭りを運営される方の高齢化だと思います。運営される方が少なくなれば、祭りも相応の規模でしか実施することはできません。もう一つは若い人たちが伝統的な祭りに対して関心が薄いのではないか。ということです。今の世の中は祭り以外にも面白いものであふれていて、祭りに参加する気があまりわかないでいるのではないか。ですが、祭りに参加することは筑後市

の伝統文化を守つていくことにもなると思います。若い人たちにもつと関わつてほしいと思います。一方、花火大会やちつごろん、ちつご祭はステージントです。花火大会はもちなお店が出て、町が賑やかになります。もちろん私も毎年楽しみにしているお祭りです。最近は道路が整備されて大きくなり、いろんな方面から人が来やすくなつたように感じます。

こういうイベントは筑後市のことが多く的人に知つてもらういい機会だと思ひます。祭りを楽しみながらおいしい食べ物を味わつたり、伝統文化に触れたりしてほしいです。私たちSNSを使いこなしています。そのSNSを使つて、このような祭りを発信していくと注目もらえると思います。

筑後市

みんなが帰る場所、筑後市  
筑後中学校 2年  
葉山 未菜

継ぐ伝統的な祭り、賑やかに多くの人を誘い込むべきな祭り。「祭り」を通していろいろな人と関わり合える筑後市の文化を大切にしたいと思います。

私は将来、進学のために筑後市を離れるかもしれません。若い人達が、進学や就職を機に筑後市から離れていくのではないかと考えます。そうなると、市外へ人が移つていくことになります。

では、人々が筑後市に戻りたい、住み続けたいと思うには何が必要でしょ

うか。

私は「筑後市へのふるさと愛」と愛だと考えます。では、どのようなにして、この「ふるさと愛」は育まれるのでしょうか。私は利便性や快適性だけでは測れないも

める割合は減少しており、2050年には51.9%になる推計に。また、年少人口は長期的な減少が続ります。

2.8%までに減少する見込みだそうです。一方、老人人口の30%以上が65歳以上の高齢者になると、いうデータが出ています。

私は将来、進学のために筑後市を離れるかもしれません。若い人達が、進学や就職を機に筑後市から離れていくのではないかと考えます。そうなると、市外へ人が移つていくことになります。

では、人々が筑後市に戻りたい、住み続けたいと思うには何が必要でしょ

うか。

私は「筑後市へのふるさと愛」と愛だと考えます。では、どのようなにして、この「ふるさと愛」は育まれるのでしょうか。私は利便性や快適性だけでは測れないも

生産年齢人口の全体に占める割合は減少しており、2050年には51.9%になる推計に。また、年少人口は長期的な減少が続ります。

2.8%までに減少する見込みだそうです。一方、老人人口の30%以上が65歳以上の高齢者になると、いうデータが出ています。

私は将来、進学のために筑後市を離れるかもしれません。若い人達が、進学や就職を機に筑後市から離れていくのではないかと考えます。そうなると、市外へ人が移つていくことになります。

では、人々が筑後市に戻りたい、住み続けたいと思うには何が必要でしょ

うか。

私は「筑後市へのふるさと愛」と愛だと考えます。では、どのようなにして、この「ふるさと愛」は育まれるのでしょうか。私は利便性や快適性だけでは測れないも

のがあると思 います。このふるさと愛の根幹にあるのは、地域で育まれる「安全・安心」ではないでしょ うか。

私は生まれ育ったこの  
筑後市でこれからも生活  
していきたいと思つてい  
ます。確かに都心部に行け  
ば、利便性のよい暮らしが  
できるかもしません。振

り返つてみると、私がここまで成長してきた中で多くの「見守り」があつたと 思います。家族はもちろんのこと、毎日の上下校を見 守つて下さる地域の方々、 顔を合わせれば自然とあいさつを交わすご近所さん。私のご近所ではお裾分けの文化がまだ残つています。私は日常にある、この人と人との交流、温かさが「安全・安心」ではないかと考えます。つまり、人と人の結びつきです。 これから加速していく「少子高齢化」。だからこそ、地域のネットワークがより大切に感じられます。

これから筑後市に求められるもの、それは「子育てや教育、福祉がつながる地域コミュニティづくり」です。

私は、福島県大熊町にある「学び舎ゆめの森」という施設が、地域コミュニティとして、大きな役割を担つていると聞いたことがありませー。

大熊町は東日本大震災による福島原発事故で、町内全域に避難指示が出され、現在の町内人口は震災前の7%程度だそうです。町は人々に戻ってきてもらいうため、震災の経験から価値観と学力観を転換し、零歳から百歳までの人々が集い、共に学び深め、支え合つていけるコミュニティ作りを目指しました。施設内に幼保・小・中の教育、福祉施設があり、異年齢間の交流が自然と行われています。施設の真ん中には図書ひろばがあり、年齢関係なく人々が関わり、交流が生まれているそう

です。地域の方々と協創する行事が日常的にあり、交流のみならず、まちをまとめる大きな役割を果たしています。



大好きな町、筑後市

羽犬塚中学校 2年

田中  
泰騎

「昔は羽犬塚駅前には、大きな市場やデパートがあり、とてもにぎやかだった。」以前、近所のおじいさんからこんな話を聞いたことがあります。以前は、たくさんのお店が軒を連ね、商店街がとてもにぎやかだったということです。今は、どうでしょう。いろいろなお店はありますかが、にぎやかと言えるでしょうか。僕は、この言葉から筑後市の未来について考えてみました。

筑後市にもサンコアやチクロスといった交流の拠点となる場所があります。地域で子育て世帯を見守り、高齢者を一人にしないコミュニティをより一層充実させていく必要があります。誰かが気にかけてくれている、誰かをいつでも頼れる。そんなコミュニティが温かな「ふるさと愛」を育んでいくはずです。「安全と安心」で包み込んでくれるふるさと筑後市。みんなで創つていきましょう。

七月は、福岡県同和問題啓発強調月間です。

七月は、福岡県同和問題  
啓発強調月間です。羽犬塚中学校の二年生  
の授業では、「みんなが安  
心して過ごせる学校生活  
について考え方」という  
めあてで、人権学習が行わ  
れました。学校で起きるい  
ろいろな場面を描いたイ

ラストを見て、学校生活の中で「人に優しいところ」「気になるところ」を考えて、ようという内容でした。イラストでは、困った人を助けていたり、嫌なことをされているひとがいたりして、そのような行動をどう思うか、また、どうしたらよいかをクラスで話し合いました。

このような意見が出ました。  
「困っている人がいたら、見て見ぬふりをしない。話しかける。」「自分から気づき、行動する。」などです。

僕が考えたのは、このようない取り組みを筑後市における市民生活に広げてみてはどうだろうかということです。「人に優しいところ」「気になるところ」を取り出して、みんなでどうすれば過ごしやすい町になるか考え、それを実行する、そうすることで、みんなが安心安全に暮らせる、笑顔あふれる人にやさ

新しい町になるのではないか。  
話は変わりますが、筑後市には、買い物が楽しめる多くの店やいろいろな飲食店などがあります。筑後広域公園やタマホームステジアムなどの遊び場や、船小屋温泉のような憩いの場があり、子供から大人まで楽しく過ごせる場所があります。

「困っている人がいたら、見て見ぬふりをしない。話しかける。」「自分から気づき、行動する。」などです。

僕が考えたのは、このような取り組みを筑後市における市民生活に広げてみてはどうだろうかといふことです。「人に優しい

ここではじめの駅前の話に戻りますが、羽犬塚駅と今述べた場所をつなぎ、アクセスを今以上によくすることで、もっと便利で楽しい町ができるのではないか。そうすることで、筑後市内の多くの場所がにぎやかになり、駅前にぎわいも戻つてくると思います。

現在、羽犬塚駅周辺循環バスというものが、実証運行されています。羽犬塚駅周辺地域の日常の買い物や通院に利用できるよう、スーパー や病院、市役所などの公共施設を循環して

いるバスです。また、交通が不便な地域における高齢者などの移動のために、地域の人と市の協働により筑後市コミュニティ自動車が様々な場所で運行されています。今後は、それらを利用しやすい料金設定、例えば、高齢者や子どもは無料にしたり、バスの利便性を今以上によくしたりすると、多くの市民の方が利用しやすくなり、人の移動が盛んになり、駅前も含め、市も発展するのではないかと思います。

人口五万人のこの町は、くつろぐ場所や買い物をするところがたくさんあります。どこにでもすぐに行くことができる、そして、思いいやりにあふれ、人に優しい。僕は、このような筑後市が大好きです。ずっとこの町に住みたいと思つて

現在、羽犬塚駅周辺循環バスというものが、実証運行されています。羽犬塚駅周辺地域の日常の買い物や通院に利用できるよう、スーパー や病院、市役所などの公共施設を循環して

